

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 19 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2173300043		
法人名	有限会社 ししまハウス		
事業所名	グループホーム ししまハウス 宮川		
所在地	岐阜県飛騨市宮川町巣之内64 (電話) 0577-63-2588		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年10月9日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】 (平成 19 年 9 月 20 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人 常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.9 人		

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (平成 19 年 9 月 20 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	飛騨市民病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな山の麓の高台にあるホームである。目の前には地域のゲートボール場があり、近隣の高齢者と利用者の交流の場になっている。職員や利用者は飛騨市内の方がほとんどで、会話もなじみのある方言で交わされて穏やかでゆったりとした雰囲気がある。地域の小・中学校、高校や保育園の行事に招待されたり、JR高山線の全線復帰イベントに参加して地域に溶け込んでいる。職員は利用者を人生の先輩として一人ひとりをととても大切に、安心と信頼の上、日々、ケアの質の向上を目指している。また、経営者は地域に密着した理念のもと運営している努力が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は身体拘束(自傷行為の方のベット柵)・食事の時のエプロン装着についての改善点があり、職員会議で話し合いを行い、対策をとり、改善をした。洗剤・漂白剤を利用者の目の触れない棚に置くようにし、利用者の居室の氏名から「様」をはずして対策は取られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者とケアマネジャーが自己評価をしてケアの見直しや疑問点を職員会議やケア会議で取り上げ、課題として検討している。外部評価・自己評価の結果をサービスの向上につなげて反映していく前向きな姿勢がある。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は3ヶ月に1回開催している。行事を報告したり、市の介護保険情報を得たり、外部評価を検討課題をして運営に役立てている。また、利用者や家族が出席して意見交換もしている。
	重点項目 ③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情、不安への対応は家族の面会時に日頃の伝えたいことやホーム内の事をメモして置き、伝言ノートを作成して、ホームとの橋渡しにうまく活用されている。直接言いにくい事も、ケアマネジャーが利用者の自宅に1ヶ月に1回は訪問し、その時点で意見や思いや苦情を聞き、ケア会議で検討している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民として受け入れられ、小・中学校の運動会や高校の文化祭への招待を受けたり、高山線の復帰イベントに参加したりしている。また、ゲートボールがある時には、声をかけて参加をしたり見学をして、地元老人クラブとの交流はできている。日常的に地域の人や家族の往来あり野菜や果物等の差し入れがある。地域と積極的に連携を図る取り組みがされている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との良好な関係づくりと、個別性を活かすことを基本理念として、開設時から一貫した方針のもとで、利用者の生まれ育った地域の思い出、生い立ちを大切に、一人ひとりの能力を活かし、余生を楽しく過ごしてもらいたいとの方針である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下に掲示し、日常生活の中でも会話に取り入れ、実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブや近所の人々がゲートボールをする時は、言葉かけをして参加したり見学をしている。小・中学校の運動会や、高校の文化祭に招待を受け参加したり、JR高山線の復帰イベントに参加し、地域の人たちと共に祝いをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で改善点だった利用者の居室の氏名から「様」をはずしたり、身体拘束としてのベット柵やエプロンの使用方法について全員で話し合い、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>3ヶ月に1回開催され、外部評価の結果や行事を報告議題として取り上げ、ホームの運営に反映させている。また、市から介護保険情報も得ている。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>月に1回、市が主催の全介護事業所の担当者会議があり、現状の報告を受けたり、市が抱えている救急病院体制など、幅広く情報交換が行われ、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>写真入りで日々の暮らしや金銭のことを定期的に送っている。また、電話や面会時に伝え、面会に来れない家族には手紙で報告している。ホームから家族に伝えたことは、内容、日時、誰に、と記録されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時は必ず、要望や不満苦情を聞くようにし、メモにして伝えている。また、ケアマネジャーが月に1回の自宅訪問時に言いやすい雰囲気作りに心がけ、意見を求め、運営に活かしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はあるが、馴染みの言葉を使い、影響を最小限に抑えている。また働きやすいように、昼食代を取らず、家庭の事情を考慮した職員体制が取られている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術や気付きについての職員指導は日々のミーティングや学習会を利用して法人内で行っている。	○	認知症実践研修にも研修地が遠く、研修日の前泊・後泊と必要で参加しにくい状況であるが、外部研修を計画的に取り入れることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャーの会や、飛騨介護サービス担当者会議で交流を心掛けている。花見やブドウ狩りなどをして法人内系列の交流がある。グループホーム事業者との交流は検討していく段階である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地元の方がほとんどなので、地域ならではの話題を会話に活かしている。利用希望者には、見学をして一緒にお茶を楽しんだり、利用者と馴染める雰囲気作りに努力している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	J R 高山線復帰を機会に、昔の国鉄時代の利用目的や思い出を一人ひとり聞き取りし、回想法を上手に活用して壁に掲示してある。高山線数え唄や昔話を聞いて、支えあう関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	晩酌習慣のある利用者は家族と相談のうえ、希望をとりいれて、毎日晚酌をしたり、日課で小物（花瓶）をつくる人、新聞を決まった場所で読む人、それを見ているだけの人と一人ひとりに寄り添って支援がされている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に利用者の心身状態や希望、家族の思いを大切に、職員全員で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、ケア会議に問題点を出し合っ、全職員で話し合い作成し、本人、家族に同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望で、通院移送サービスを提供している。月に2回、近くにある温泉出掛けたり、年に1回は富山まで回転寿司を食べに行くなど特別な外出の機会を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、家族の希望で診療所の医師の往診を受け、健康管理をしている。これまでの主治医を継続し、ホームで往診を受けない人には通院介助を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時は主治医・家族と連絡を取り、話し合っている。入所の時点で本人・家族から重度終末期の対応の意向を確認する様式を作成する予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを大切にしながら、言葉かけに気をつけ、入浴を拒否している方には時間を置いて何度もゆっくりと耳元で声掛けをし誘導している光景が見られた。記録物は所定の場所に安全に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の流れがあるものの、希望によって入浴時間を調節している。、時間を十分掛けての食事や居室で1人で食事を取りたい利用者にはその時に応じ職員が交代でそっと見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・準備や下膳・食器洗いは出来る人が職員と一緒にやっている。食事時間もゆっくりと職員と共に楽しい食事風景が見られ、一人ひとりの湯のみや箸は持ち込みである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2階に浴槽は2つあり、浴室は改装されて介護度5の方も気持ちよく利用され、安全で十分な広さが確保されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、挨拶の上手な方には誕生会や行事の時に司会をしてもらったり、食器洗いや、洗たく物たたみの役割がある。また、ゲートボールや孫の運動会に参加して気晴らしや楽しみごと野の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲の散歩や自宅の畑の芋掘りや、地元のゲートボールに参加し、できる限り外出する機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は鍵をかけず、圧迫感のない暮らしに努めている。ベランダはいつでも出入りが自由である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	いつでも地域の情報が入る有線放送が絶えず流れている。数mしか離れてない場所に消防署あり、無線を好意的に貸してもらえことができる。	○	自主避難訓練は計画をして、運営会議に議題として挙げ、地域の人たちの協力が得られるように努力されたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材購入の段階でカロリー計算がされている。毎日の摂取量で把握して記録してある。水分は入浴後やおやつ後、散歩後に補給している。夜間にいつでも飲用できるようにペットボトルにお茶を入れて居室に置くようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花が活けられて、玄関わきには花壇で花を作り、水槽には熱帯魚が飼育され、秋の日差しがベランダに心地よく差し込み、建物の裏からは川の水の音が聞こえてきて地元で暮らしている安心感を醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた桐のタンス、ベッド、仏壇、CDや自分で作成した大きな手まりなど過去の生活に結びつくような小物を家族の協力を得て持ち込まれ、居心地の良い居室づくりの工夫がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。